



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

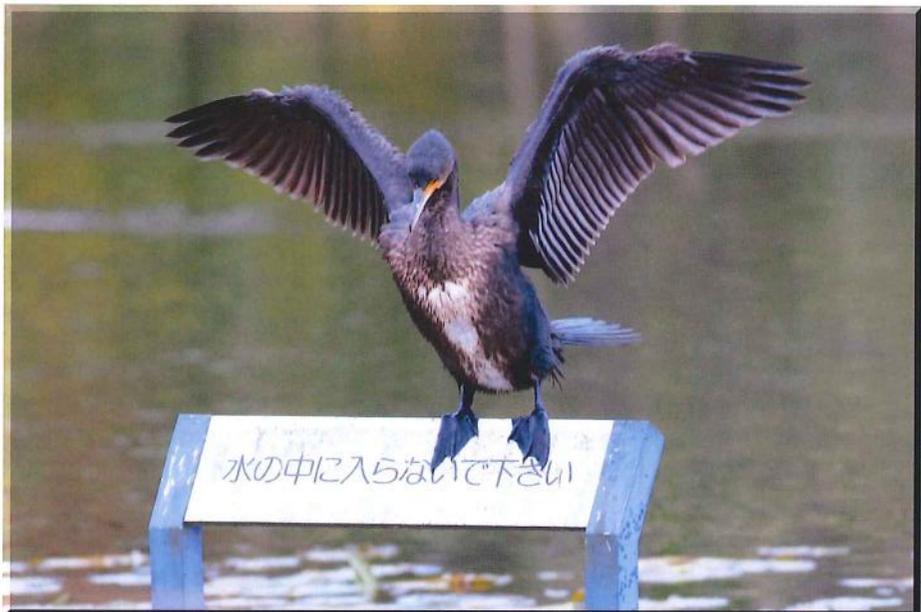
しらこぼと

2013.5

No.349

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



北本自然観察公園の「変なキジ」の考察

野鳥記録委員会 長嶋宏之(蓮田市)

はじめに

2013年2月3日(日)北本市石戸宿定例探鳥会で「変なキジを観察した」と担当の吉原俊雄メインリーダーから田島利夫氏が撮影した5枚の写真を添えて事務局にメールが届き、野鳥記録委員会に転送された。この個体は一体何なのか? 委員たちとメールで情報と意見を交換しながら、解明を試みた。



2月3日、田島利夫氏撮影

写真からわかったこと

先ず外観からキジ属であることは間違いないだろう。羽衣からはキジ(*Phasianus colchicus robustipes*)とコウライキジ(*Phasianus colchicus karpowi*)の特徴が見て取れる。

① キジ雄と似る点

頭部から頸が金属光沢のある黒紫。
尾が長く灰褐色の地に黒い横斑がある。
嘴が白っぽい。

② キジ雌と似る点

肩から腰が褐色で黒褐色の斑がある。
顔に赤く裸出している肉垂がない。
後頭部に冠羽がない。

③ コウライキジ雄と似る点

胸と腹部が茶褐色で黒褐色の斑がある。

④ コウライキジ雄と異なる点

頸に白い輪がない
コウライキジ雄の脇は黄褐色の地に黒褐色の斑があるのに対し、本個体の脇は茶褐色の地に黒褐色の斑がある。

⑤ その他

羽の1枚1枚が綺麗だ。特に尾羽の先端や顔の周囲、各部の羽の先端が擦り切れたり折れたりなどして痛んでいない。

東南アジアやヨーロッパに生息するキジ類の特徴は見当らない。

同公園をフィールドにしている観察者の話

筆者もこの「変なキジ」を見に2回北本に行ったが、見られなかった。その折り、公園を観察フィールドにしているらしい数人に写真を見せながら聞いてみた。すると下記の回答が帰ってきた。

- ① この変なキジは3~4年前からいて、当初から色は変わっていない。
- ② 同時に複数羽を見たことはなく、いつも1羽でいる。
- ③ 同公園とその周辺では、いつも見るキジ以外のキジを見たことがない。

尾羽を除いた大きさについては①通常の雄より小さい ②同じくらいだ ③気にしていなかったのではわからない、と答えた人はほぼ同数であった。足については誰もが「草の中だし、注意して見たことがない。写真も撮れていない」とのことであった。大きさと足については2月3日の探鳥会に参加した数人からも、同じような回答があった。

明らかになったこと

写真からわかったことや観察者の話で、次の事が明らかとなった。

- ① 自然交配による交雑個体ではない。
自然交配による交雑で有れば、1巢の卵数は普通7~9個なので、同じような色の兄弟姉妹が3~4年前からいたはずである。
「3~4年前から1羽しか観察されていない」ことから、自然交配した交雑個体とは考えにくい。
- ② 羽衣の傷みがないことから、広い場所(自然の状態)で何度か換羽を繰り返している。
- ③ 飼育していたものを放鳥したとすると、放鳥の時期は3~4年前以前である。

考えられること

それでは、この鳥は何なのだろうか?

いずれも推察の域は出ないのだが、次の可能性が考えられた。

- ① 人為的に交配させた交雑個体。
 - ② 突然変異。
 - ③ キジ雄の老化現象。
 - ④ キジ雌の雄化現象。
- ひとつずつ検証を試みた。

人為的に交配させた交雑個体

キジの亜種は日本に4亜種、世界に約30亜種いると言われている。これらの亜種のどれかを飼育して(人為的に)交配させたとの考えは捨て難い。中でもキジとコウライキジとの交配は有力な説であろう。

突然変異

これについては、顕微鏡やその他精密機器の範疇であり、双眼鏡と望遠鏡で楽しむバーダーの域を超えている。故に、この件についてはわからない。

キジ雄の老化現象

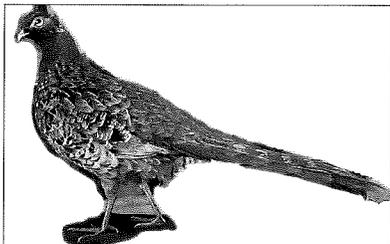
年老いたニワトリの雄は換羽の時期がずれ、羽には光沢がなくなり、生えるべき羽が生えなかつたりする。しかし「変なキジ」の羽衣は頸回りに光沢が有り綺麗で、あるべき羽があり、キジとしての魅力さえ感じる。雄の老化現象とは思えない。

雌の雄化現象

情報(1) 他の鳥でも雄化現象があるのか

雌が雄化する例が、たまにあることがわかった。中でもカモの雌が雄化する例が多いようだ。ブログ「スーさんの樹木医日記&野鳥研究室」にはスズガモの例が載っている。またオナガガモでは比較的多くの例があるようだ。他の小鳥ではサンコウチョウの例を載せている。

情報(2) 近縁種の雄化現象が見つかった



雄化した亜種アカヤマドリ雌の剥製(友人A)

筆者が雄化現象の情報を集めていることを知った友人Aが「大分で捕れた亜種アカヤマドリ雌の雄化個体の剥製(昭和49年制作)の

写真」を送ってきた。Aの話では40年間猟をして、約10,000羽のヤマドリを扱ったが、この1羽しか雄化の例はないとのこと。写真によれば、目の周囲、頭部、頸、尾羽は雄化し、腰部は雌のまま、距(けづめ)はない。

情報(3) 専門家の説を聞いてみた

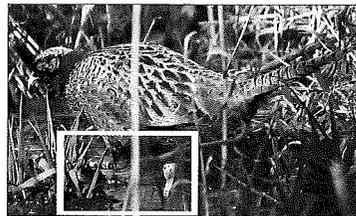
2月3日撮影の写真を見て、学識ある友人Bは「コウライキジの雌かキジの雌かは判断つきにくい、キジまたはコウライキジの雌の雄化で間違いない」と断言した。別の友人Cは「野生のキジの雌が雄化した個体で、卵を産まなくなった老体である。こうなると余命はわずかだ」と疑わない。2人とも多くのキジを見たり、扱ってきたその道の専門家だ。

(若い個体でも雄化現象は発生するという説と産卵しなくなった老体が雄化現象を発生するという説がある。)

情報(4) 検証を試みた

一般に雄化は個体の外観だけで断定することはできず、捕獲された個体で確認されないと断定は難しい場合が多いとも聞く。しかし、今回の対象はキジである。雌であれば、足に距(けづめ)がないはず。これなら捕獲しなくとも、バーダーレベルで確認できる。

この疑問に田島利夫氏が応え、別の写真(下)を提供してくれた。それでは距がないようにも見える。しかし、残念だが万人を納得させ得る画像ではない。友人B・Cの説を裏付けるためにも、今後、誰かがさらに明確な写真を撮り、誰もが納得する証拠が示されることを期待している。



四角部分を拡大



野鳥情報

さいたま市見沼区丸ヶ崎町 ◇1月19日午前10時30分頃、実家の庭のサルスベリの木にマヒワ♂1羽♀3羽、サルスベリの実を食べていた（藤原真理）。

坂戸市城山 ◇1月20日午前10時30分、高麗川城山橋上で、左岸の城山の森の一番高い木々を見ると、緑の中に白っぽく動くもの。双眼鏡で観るとオオタカ♂1羽。川沿いに上流に歩いて行き、帰途、午後12時頃に見ると、少し位置を変えただけで、まだいた。城山のオオタカは久しぶり（増尾隆）。

坂戸市赤尾 ◇1月23日午後1時30分頃、越辺川のコハクチョウを見た帰途、広くひろがる田んぼにマガン4羽。落穂をついばんでいるようだった。例年、宮城県伊豆沼で越冬するマガンが今冬の厳しい寒さで南下していると報道されていましたが、ようこそ坂戸へ！ 自己初記録。写真撮影しながら、午後2時まで観察（増尾隆他3名）。



坂戸市のマガン（増尾隆）

さいたま市岩槻区馬込 ◇1月24日午後2時頃、緑のトラスト7号地でキクイタダキ3羽、初めは杉の木の高い所にいたが、暫く見ているとだんだんと降りてきて、最後には目の前30cm位迄に近づいて来てくれた。その小ささと可愛さを再認識した（菊川和男）。

久喜市菖蒲公園昭和沼 ◇1月25日、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ♂2羽♀1羽、ヨシガモ♂4羽、ヒドリガモ、オナガ

ガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、オオバン、カンムリカイツブリ（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇1月28日、シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群中にキクイタダキ2～3羽、ヒガラ3羽＋。メジロが枯れ枝の先でフライキャッチを繰り返す。メジロがフライキャッチをするのは初めて見た。芝川第七調節池の藪にアカハラ1羽（小林みどり）。

さいたま市北区芝川（県道2号線～鷲山橋）
◇1月28日、コガモ♂3羽、♀7羽、このうちペア1組。オカヨシガモ♂4羽、♀2羽、このうちペア2組。ヒドリガモ♂6羽、♀5羽、このうちペア2組。春ですね。2月4日、カワウ繁殖羽1羽、コサギ2羽、アオサギ2羽、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ♂1羽、♀2羽、バン成鳥2羽、若鳥1羽、オオバン1羽、キセキレイ1羽、オオジュリン2羽＋。ヒドリガモ6羽（♂繁殖羽3羽、換羽中2羽、♀1羽）、岸へ上がって草をついばみながら歩く。3月18日、カイツブリ夏羽1羽、「ケレレレ…」と鳴く。カワウ繁殖羽1羽、コガモ♂1羽、♀1羽、オカヨシガモ♂1羽、♀1羽、キンクロハジロ♀型1羽、バン成鳥1羽、オオバン1羽、カワセミ1羽。3月28日、アオサギ1羽、嘴、脚に婚姻色が出ている。コガモ♂5羽、♀1羽、キンクロハジロ♀型1羽、まだいる。何となく元気がないようで心配。バン成鳥1羽、額板の赤が冴えてきた。シジュウカラ3～4羽、追いかける（小林みどり）。

吉見町八丁湖 ◇1月31日午前9時～10時30分、ウソ♀4羽、まだ固い桜の芽を盛んにつついていた。メジロ、シジュウカラ、ルリビタキ♀、ジョウビタキ♀、ヤマガラ、カワラヒワ、アオジ、ツグミ、セグロセキレイ、カワウ、コガモ、マガモ100羽＋、カルガモなど（阿部義裕）。

さいたま市見沼区染谷 ◇1月31日、ツミ1羽、低空飛行でターゲットを追撃。ターゲットが危機一髪で植込みに逃げ込むと、植込みの手前でクイックターンし、来た方へ戻ってゆく。ターゲットは直前まで近くの

梢でさえずっていたホオジロだったようだ。アカゲラ♂1羽、♀1羽、シロハラ1羽十、キクイタダキ1羽十。カケス2羽、「キッキキッキ」とオオタカの鳴きまね。3月7日、オオタカ1羽、上空を旋回。ヤマガラ、シジュウカラさえずる。3月19日、シロハラ、ヤマガラ、カシラダカなど。アオジの♂は顔が黒くなってきた。シメの嘴が鉛色になってきた（小林みどり）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇1月31日、加田屋川にダイサギ1羽、アオサギ1羽、カワセミ1羽。中州のアシにオオジュリン1羽。農耕地にアカハラ1羽。3月7日、農耕地でヒバリ、ホオジロさえずる。タヒバリ1羽、アカハラ2羽、ミヤマガラス70羽十。3月29日、農耕地でキジとコジュケイの声（小林みどり）。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇1月31日、シロハラ1羽十、キクイタダキ1羽十、エナガ2羽十。モズ1羽が飛んでくると、シジュウカラやメジロが、タカが近づいた時と同じような鋭い声で鳴く。2月12日、アカゲラ♀1羽、わき目もふらずに木をつつく。シロハラ4羽十。シジュウカラ、メジロの混群中にキクイタダキ2羽十。カケス5羽、またオオタカの鳴きまね。なぜか春になるとオオタカのまねをする。最初は騙されたが、もう騙されないよ〜だ！ 2月26日、ルリビタキ早型1羽。3月7日、コゲラのドラミングが聞こえる。メジロさえずる。3月19日、ヤマガラさえずる（小林みどり）。

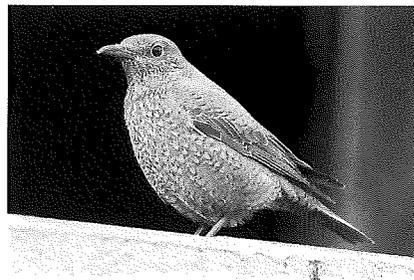
羽生市町屋新田 ◇2月9日午前11時頃、羽生水郷公園に出掛けたが、あまりの強風のため早めに切り上げ、ちょっと回り道をしたところ、田圃でミヤマガラスの大群に遭遇。慌てて車を止める。ミヤマガラス300羽位、コクマルガラス淡色と暗色合わせて7〜8羽（菊川和男）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇2月10日、昭和沼で白っぽいオオジュリンを探したが見つからなかった。他にカンムリカイツブリ、5羽の内1羽が繁殖羽に変わりつつあった（長嶋宏之）。

蓮田市黒浜 ◇2月14日午後3時頃、ベニマシコ♂1羽、♀4羽。少し高い木にいて、盛んにその木の実を食べていた（菊川和男）。◇3月10日午前10時〜11時30分、ベニマシコ♂1羽、♀1羽。モズが多い。ペアの姿も見られる。あちこちから鳴き声が聞こえていたが、時々、求愛の囀りも聞こえる。中には、オオルリもどきの歌い手もいて、さすが、漢字で百舌と書く訳だと感心したりもする。藪では、ウグイスがさえずりの練習。ツバメ1羽、今季ここでの初認。いつもより早い。一気に春（藤原寛治）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇2月19日、ヒヨドリ70羽十が畑の隅の低木に止まって、周囲の様子を伺っていた。安心と見るや、近くのブロッコリー畑に舞い降りて一斉に葉を食べ始めた。1羽が何かに驚いてか低木に舞い戻るや残りも一斉に低木に舞い戻り、また周囲の様子を伺っていた。ブロッコリーの葉は芯だけになっていた。3月8日、ウグイスのグゼリを聞いた。この春初めてコジュケイが囀った。3月9日、ホオジロが梢で囀っていた。2羽のシメがアカハラ近くで、落ち葉をひっくり返していた。ヒヨドリに追われてツグミが声をあげて逃げ回った（長嶋宏之）。

白岡市小久喜 N36.0187 E139.6641 ◇2月21日午後3時40分頃、解体中の民家の庭先に、ヒヨドリにしては全身が黒っぽい鳥が採餌していた。良く見たらイソヒヨドリの♀だった。その後、ブロック塀の上に飛び上がり、カメラを取り出し撮影するまで、ジッとしていた（長嶋宏之）。



白岡市のイソヒヨドリ♀（長嶋宏之）

滑川町国営武蔵丘陵森林公園 ◇2月26日午後1時頃、山田大沼で目先から嘴の基部に

かけての顔が白っぽく、胸の白色部に淡褐色の斑があるハシビロガモ♂がいた。部分白化なのか交雑によるものなのかは分からなかった。その他、梅林にミヤマホオジロ♂4羽、ルリビタキ♂成鳥、疎林地帯に部分白化のアオジ、てべ沼周辺にクロジ数羽など（長嶋宏之）。◇3月7日午前9時30分～午後1時30分、ここのところの暖かさで梅が急に咲き始める。梅林でミヤマホオジロ♂2羽＋、林床で採餌。ウメの花目当ての人が増えてきた9時50分頃には、飛び去る。他にヤマガラ、シジュウカラ。梅林以外の所でエナガ、アオジ、シロハラ、キクイタダキなど。ガビチョウが大きな声で囀る。山田大沼でマガモ、コガモ、カルガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ♂1羽、ヨシガモ♀2羽♀1羽。池の周りの木にアオサギ20～30羽。カワウのコロニー、木が白くなっていた（藤原寛治）。

さいたま市桜区白鷺 ◇3月3日、鴨川流域でゴイサギ、ハシビロガモ、チョウゲンボウ、イソシギ、セグロカモメ、カワセミ、ジョウビタキ他。連日の強風で鳥の出もいまいち、それでも前記含む計30種。住宅街を流れる決して大きくない(きれいでもない…)川。数年前から観察を続けているが、これまでに約60種を確認（石塚敬二郎）。

川越市伊佐沼 ◇3月10日午後12時30分～13時頃、カルガモ、コガモ20～30羽、ハシビロガモ10羽士、ヒドリガモ10羽＋、スズガモ1羽、コチドリ23羽、イソシギなど。水が少なく沼の縁のあたりや中央の方でも沼底が出ている部分があり、コチドリはそこで歩いていた（井内寛裕）。

加須市船越青毛掘調整地 N36. 1057 E139. 62 24 ◇3月15日、5羽のコチドリが採餌していた。今季初認（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇3月15日、加田屋川の中州にコチドリ1羽、上空をツバメ1羽、ともに今季初認。このエリアでは昨年よりも2週間早い（小林みどり）。

加須市はなさき公園 ◇3月15日、チョウゲンボウ♂が早にネズミを渡した。2羽のホオアカが草むらから飛び出し、近くの草む

らに移動した。林床でシロハラがツグミを追い払った。他にキジ♂、カワセミ、モズ、ヤマガラ、ホオジロ、アオジ、シメ、カケスなど（長嶋宏之）。

坂戸市浅羽ピオトープ ◇3月17日午後0時15分頃、駐車場からモニュメントの後の土手に上がると、ピオトープ内水路右岸にあたる土手下の林に、木の枝から地面に降りては枝に上がるを繰り返す鳥影。土手下に下りてから見ると、キレンジャク2羽。ヤブランが群生していて、その実を採食しているようだった（坂口稔、増尾隆）。

さいたま市緑区大門 ◇3月18日午後2時頃、ツバメ1羽、今季ここでの初認。強風の中を飛ぶ（藤原寛治）。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇3月18日、森の中をオオタカ1羽が飛ぶ（小林みどり）。

さいたま市見沼区大谷 ◇3月19日、ウグイスさえずる（小林みどり）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇3月19日、アオサギ1羽、嘴がだいぶ赤っぽくなってきた。シマアジ♀1羽、コガモ♀1羽と並んで採餌。コガモ♀に比べると茶褐色味がありません、全体的に黒っぽい。コガモよりも嘴が長くがっしりしている。嘴の付け根に白斑がある。コチドリ1羽。農耕地ではキジ♂1羽、アカハラ1羽＋（小林みどり）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇3月22日、ヒヨドリ15羽＋が1本のケヤキの新芽を食べていた。もう畑にヒヨドリの群れはいない。3月26日、11羽の亜種オオカワラヒワが屋敷林の樹冠にとまっていた。渡去前の群れかも。3月30日、ナラ林の切り株の上にアオゲラ♂。3羽のカケスが林床で採餌。その後、2羽が加わった。植木畑でコジュケイ2羽。久しぶりに姿を確認した。東沼に20羽のカルガモに混じってヒドリガモ♂1羽。ここで初めての記録だ（長嶋宏之）。

表紙の写真

カツオドリ目ウ科ウ属カワウ

「入るなって言われてもなあ」。見沼自然公園で、こまっていた。

佐久間孝夫(さいたま市)



行事案内



バン

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：5月3日（金・祝）

集合：午前9時15分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線東武動物公園東口から境車庫行き8:45発バスで「上宇和田」下車、北方向に徒歩約5分。

担当：中里、植平、栗原、佐藤、佐野、竹山、村上

見どころ：色濃い緑の公園の中はフジの甘い香りが満ちています。梢ではホオジロが胸を張ってさえずっています。アシ原からはオオヨシキリの恋歌が流れてきます。土手を歩きながらこの季節を我がものとしてください。

栃木県・県民の森探鳥会（要予約・会員限定）

期日：5月4日（土・祝）

詳細は4月号をご覧ください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月6日（月・祝）

集合：午前9時30分、JR京葉線南船橋駅前。

交通：JR武蔵野線（京葉線海浜幕張行）武蔵浦和8:27→南浦和8:31→南船橋9:21着。

担当：杉本、手塚、長谷部、伊藤（芳）、和田、野村（修）

見どころ：春の渡りのシギ・チドリ類を観察します。北へ帰るユリカモメは見えるでしょうか。タカ類にも期待。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月6日（月・祝）

集合：午前8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。または午前9時、元荒川の川島橋左岸。

担当：玉井、田中、長嶋、吉安、菱沼（一）、長野、青木、榎本（建）、小林（み）、内田（克）

見どころ：爽やかな5月の風を感じながら、やってきたツバメ、セッカ、オオヨシキリなどの夏鳥と、繁殖期に入って鮮やかになった鳥たちを楽しみましょう。そして渡りの途中の鳥達とも出会いたいですね。

ご注意：今回は元荒川の川島橋左岸から歩きだして、黒浜沼（環境学習館）までの片道コースです。車で来られる方は、環境学習館ではなく、北側に新しく出来た「緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場」を利用して下さい（川島橋まで徒歩約15分）。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月12日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車。

担当：中里、新井（巖）、森本、倉崎、鶴飼、千島、栗原、飛田、中川、村上

見どころ：土手の上を爽やかな風が流れていきます。ツバメたちが気持ちよさそうに行き交っています。足元では草花が装いを競っています。初夏の兆しの大麻生においでください。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月18日(土)

集合：午前8時40分、東武伊勢崎線花崎駅南口階段下、集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8:14→久喜8:27→花崎8:34着。JR宇都宮線大宮7:53→久喜8:15で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、中里、栗原、茂木、長谷川、竹山、相原(修)、相原(友)、植平

見どころ：若葉をさわがす初夏の風を感じながら、公園の鳥を探します。川面を飛び交うツバメ、池で採餌するコアジサシ、空で轉るヒバリ、すくっと伸びたアシ原のセッカ、子供を連れたチヨウゲンボウなどが見られたら最高です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月18日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、浅見、小林(み)、倉林、赤堀、宇野澤、楠見、小菅、柴野、新部、増田、島山、若林、渡辺

見どころ：見沼代用水浴いの桜は、すっかり青葉に変わりました。1ヶ月前まで主役だった冬鳥は去り、夏鳥が主役が変わります。ヒバリ、オオヨシキリ、セッカが大きな声で迎えてくれます。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：5月25日(土)～26日(日)

詳細は4月号をご覧ください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月26日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:39発に乗車。

担当：長谷部、高草木、石光、中村(祐)、山口、星、久保田、山本(真)、水谷、間正、鈴木
見どころ：年6回ある探鳥会のうち最も快適なのが5月です。暑さ寒さ、花粉からも解放され、気分良く鳥が見られます。オオヨシキリ、ササゴイ、それと繁殖期の鳥たちの様子を観察しましょう。

新潟県魚沼市・銀山平探鳥会(要予約)

期日：6月2日(日)

集合：午前6時20分、JR大宮駅西口ソニック前広場(鐘塚公園)。または午前7時、JR川越駅西口仮設トイレ前。

交通：往復貸切バス(大型)を使用

解散：19時ころ、東武東上線坂戸駅。または20時ころ、JR高崎線北本駅。※集合場所と異なります。

定員：30名(会員優先、応募多数の場合は先着順)。最少催行人数24名。

申込：往復葉書に住所・氏名・年齢・電話番号(保険加入に必要)・日本野鳥の会会員番号・集合場所、大宮か川越を明記して、入山博(入山博)宛に送付してください。5月1日消印以降から有効受付とします。

費用：6,000円の予定(貸切バス代・保険代など)。過不足の場合は当日清算。集合場所までの費用は各自負担です。

担当：入山、青木、中村(豊)、長谷部、藤原、持丸

見どころ：初めての探鳥地です。猛禽類の宝庫にイヌワシを探しに行きます。オオルリやノジコなどの小鳥たちや、綺麗な草花が私たちを歓迎してくれるでしょう。

ご注意：①遠方の日帰りの為、バスの乗車時間が往復で9時間位あります。②探鳥コースは、平坦ですが残雪があるかもしれません。

③昼食・雨具は持参してください。④雨天決行です。



行事報告

12月9日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加：49名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ オオバン イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) (番外：ドバト) 開始早々にチョウゲンボウが鉄塔に止まってくれた。昨シーズンとは異なり、シメやツグミ、アオジなどの個体数が多い。カケス2羽が枝に長く止まってくれ、スコープで観察できた。元荒川では定番のイカルチドリやイソシギが出迎えてくれた。お目当てのウソが見られなくて嘘つきになってしまったが、それでも41種。(長野誠治)

12月12日(水) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：38名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ オオハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ オオタカ ツミ ハイタカ ノスリ チュウヒ キジ オオバン キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (48種) (番外：ドバト) 谷中湖のカモは少なめだったが、白くなったミコアイサやカワアイサにハジロカイツブリ、カンムリカイツブリも居た。中之島で浮島の上の木に止まったノスリとチュウヒの飛翔に加えて木立に隠れているオオタカを見つけた。ベ

ニマシコやヨシガモをみて谷中東橋に行くとミサゴがホバリングしたりヘラブナを掴んで飛んだり大サービスだった。さらにツミ、ハイタカが飛ぶなどタカ類7種に盛り上がった。(玉井正晴)

12月15日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：37名 天気：晴後曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ハイタカ ノスリ キジバト コゲラ ビンズイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ マヒワ ウソ シメ カケス ハシブトガラス (36種) (番外：ガビチョウ、ソウシチョウ) 集合時刻を少し早めて開園と同時に探鳥を始めた。その直後、ウグイスが飛び出し、植え込みの陰にはルリビタキの姿。日本庭園では冬木立の高い梢にエナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、コゲラの混群。ふれあい広場のナンキンハゼの実にはヤマガラの他、マヒワやウソの姿。疎林地帯に向かう遊歩道からはビンズイやキクイタダキを確認。山田大沼のカモは11月のピーク時以降、次第に数を減らし、残るのはほとんどマガモとコガモで、その中にわずかにオカヨシガモやハシビロガモなどを見ることができた。(中村豊己)

12月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：9名

相原修一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫

12月16日(日) さいたま市 三室地区

参加：63名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ツミ ハイタカ バン オオバン タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外：ドバト)

三室も今年最後の探鳥会。冬鳥も勢ぞろいし今回はカモがよく見られた。下見ではいても本番は出ないことが間々あるが、この日は全て出現し、リーダーとしては一安心であった。(青木正俊)

12月23日(日) 年末講演会
参加：62名 場所：埼玉会館

恒例の年末講演会。第1部「映像で振り返るこの1年」では5名の方の映像を観賞。第2部は東邦大学理学部教授の長谷川博氏をお招きし、『種の再生に向かうアホウドリ』のテーマで講演していただいた。氏には2005年の年末講演会でも『アホウドリ保護研究30年』のテーマで講演していただいていた。この7年の間に推定総個体数が1000羽超から3000羽超へと回復が進み、南鳥島だけではなく小笠原諸島や他の繁殖場所を増やす取り組みをされていることなど興味深く聞いた。(橋口長和)

12月30日(日) 幸手市 宇和田公園
参加：33名 天気：雨

カイツブリ コサギ アオサギ マガモ コガモ ハヤブサ キジ イソシギ セグロカモメ シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ ツグミ エナガ シジウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(31種)(番外：ドバト)小雨の中スタート。早速シラコバトが出迎えてくれ、間近で全員が見られた。鉄塔の上ではハヤブサが寒そうにしていた。しばらく行くとイソヒヨドリが顔を出した。以前出たのと同じ場所だ。皆さん大騒ぎ。途中雨が本降りになり、早めに切り上げた。冷たい雨で、体は冷えたが心は温まった。(中里裕一)

1月4日(金) さいたま市 さぎ山記念公園
参加：41名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ バン オオバン タゲリ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ

ブトガラス(36種)(番外：ドバト)新人さんから久しぶりの顔、いつもの顔が並んで、年に1度、なんと25回目! この探鳥会で初めてのマヒワ、2回目のヤマガラ、ウソが出て、そんな顔と顔が輝いた。途中から風が強くなったが、恒例の野外懇親会場は風の少ない陽だまり状態。会話と歌はずんで、なごやかに無事終了。(海老原美夫)

1月5日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
参加：46名 天気：晴

カイツブリ カワウ マガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ ハイタカ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジウカラ メジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(36種)(番外：ガビチョウ)集合時刻を早め、新年の挨拶、9時30分の開園時間と同時に観察で、幸せを運ぶ青い鳥のルリビタキが出迎えてくれた。先頭ではベニマシコが見られ、山田大沼では、カワウは巣材運びをしており、カモは5種類だった。(藤掛保司)

1月6日(日) 戸田市 彩湖
参加：70名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ オオタカ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ バン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ アリスイ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ シジウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(47種)(番外：ガビチョウ、ドバト)行程の中間を過ぎた頃、やっと色々見られるようになった。オカヨシガモ、ベニマシコ、ノスリ。流入堤が見える頃、ヨシガモ、ホシハジロ、キンクロハジロの群れ。機場を回り北に出る。下のヨシ原でアリスイを見て最終地点へ。(倉林宗太郎)

1月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加:51名 天気:晴

カワウ ダイサギ カルガモ オオタカ ノスリ
キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セ
グロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジ
ョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグ
イス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シ
メ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブト
ガラス (31種+タカ科ハイタカ属不明種1) (番
外:ガビチョウ、ソウシチョウ) 下見では感触が
良かったので、期待して出発。途中でオオタカが
出た。野鳥の森に入ったが、静かでなかなか鳥が
出ない。熊谷大橋近くでようやくアカゲラが出た。
森の中の池では時間をかけて鳥が出るのを待った。
シロハラが比較的ゆっくりと見られ、全員ではな
いがルリビタキも見られた。ミヤマホオジロは朝
のうちに出ていたとの事だったが、残念ながら
我々には姿を見せてくれなかった。(森本國夫)

1月14日(月、休) 春日部市 内牧公園

雨のため中止。(石川敏男)

1月19日(土) 深谷市 仙元山公園

参加:26名 天気:快晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ
キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ハクセ
キレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタ
キ トラツグミ ツグミ ウグイス キクイタダ
キ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ
カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ カワラヒ
ワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケ
ス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番
外:ドバト) 今季は冬鳥の当たり年らしく、仙元
山も例年になくにぎやかだ。そこで、滝宮神社は
カットして仙元山に時間を割くことにした。唐沢
川では予定通りカワセミが出迎えてくれた。仙元
山では思いがけずミヤマホオジロのオスが見られ、
盛り上がった。お目当てのトラツグミ、キクイタ
ダキも全員で見られ、最後にアオゲラも出現。33
種は予想より少なかったが、好天にも恵まれ、満
足の探鳥会だった。(新井 巖)

1月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:11名

榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、
柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村
禎夫、吉原早苗、吉原俊雄

1月20日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

参加:60名 天気:晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
ブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マ
ガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ
ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ ミコ
アイサ カワアイサ ミサゴ トビ オオタカ
ノスリ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ
オオバン コチドリ タゲリ ユリカモメ セグ
ロカモメ キジバト ハクセキレイ セグロセキ
レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ
ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ
オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (48種) (番外:ドバト) 中の島にはミコアイ
サ、カワアイサが数多くみられ、浮島にはオオタ
カが、そしてチュウヒがいつもの様に飛んでくれ
た。ベニマシコはあちらこちらにいたが、風が強
くて目標の50種には僅かに届かなかった。

(佐野和宏)

1月20日(日) さいたま市 三室地区

参加:54名 天気:

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガ
モ オカヨシガモ ハシビロガモ ツミ ノスリ
オオバン タシギ ユリカモメ セグロカモメ
キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒ
バリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種)
(番外:ドバト) 今年最初の探鳥会。風が強く心
配したが、ホオジロ・ジョウビタキ等盛りだくさん。
川ではタシギが一生懸命餌を探していた。海
から川を上ってきてくれたユリカモメ・セグロカ
モメも出現し、三室では珍しいツミもいて、終わ
ってみれば34種と満足のいく探鳥会であった。集
合地にオナガがいたので開始を10分早めたが、出
発はいつも通り。今年も期待できそうな三室だ。

(青木正俊)



●**県にメジロ飼養についての要望書提出**

メジロの捕獲はすでに禁止されていますが、それ以前からの愛玩飼養がまだ継続しており、環境省鳥獣統計で本県の平成 21 年度メジロ飼養総数は(傷病鳥等も含めて)20 羽となっています。全国野鳥密猟対策連絡会(京都市)から全国の日本野鳥の会連携団体・支部に対する呼びかけがあり、それに呼応して本会は要旨次のような要望書を、3月 18 日付けで県の鳥獣保護管理業務担当に提出しました。

「各市町村における飼養許可更新手続きについて、指導監督を徹底してください。

- 1, 年 1 回の手続きを確実にに行わせること。
- 2, 足輪の番号確認を徹底し、装着していない場合は飼養許可を取り消すこと。
- 3, 可能な限り飼養現場を確認すること。
- 4, 万一捕獲や不法飼養がなされていることが発覚した場合“指導”ではなく、鳥獣保護法違反として、即時警察当局に通報すること。」

●**会員の普及活動**

2月 23 日(土)、坂戸市環境学館いずみの講座「バードウォッチングウォーキング」が、高麗川沿いから浅羽ビオトープのコースで実施され、増尾隆、坂口稔が指導。参加者 12 名、観察鳥 37 種。

同日、新ハイキングクラブ主催「見沼たんぼ野鳥観察」において、小林みどり、浅見徹、柴野耕一郎がバードウォッチング指導。参加者 28 名、観察鳥 27 種。

3月 3 日(日)、県立小川げんきプラザ主催行事「山のジャムつくりとバードウォッチング」で、千鳥康幸、新井巖、倉崎哲郎が指導。参加者 37 名、観察鳥 17 種。

●**ごめんなさいコーナー**

4月号4ページ「鳥見ランキング」の記事中、「観察鳥種数のこれまでの最高記録 172 種(2010 年船木数樹氏)」とあるのは誤りで、正しくは「172 種(2007 年鈴木敬氏)」です。船木氏の記録は 171 種でした。お二人にお詫びします。また、ランキングの回数についても、1月号9ページの募集記事に「11 回目」とあるのは誤りで、正しくは「12 回目」です。2007 年の募集から実施回数の間違いが続いていました。

●**会員数は**

4月 1 日現在 1,875 人。

活動と予定

●**2～3月の活動**

2月 20 日(水) 24 年度第 4 回見沼たんぼ市民ネット運営会議に出席(浅見徹)。

3月 9 日(土) 『しらこぼと』4月号校正(海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司、山田義郎)。

3月 17 日(日) 役員会(司会:浅見徹、各部の報告・県への要望書・その他)。

3月 18 日(月) 「埼玉会報だけの会員」に向け『しらこぼと』4月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

●**5月の予定**

5月 4 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

5月 11 日(土) 6月号校正(午後 4 時から)。

5月 18 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

5月 19 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

4月はサギたちの婚姻色が楽しみです。4月に入ると昨年のコロニーには少数のコサギとダイサギが来始めています。これらのサギたちがねらい目です。ことごとく婚姻色が始まっています。厳冬期と比べるとまるで別物。新種かと思ったこともありました。アオサギも綺麗です。(山部)

しらこぼと 2013 年5月号(第 349 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社